

074 江戸時代 交通の整備と発達

<陸上交通>

五街道 関所 ゴール
 東海道 53 宿 箱根 品川 一日本橋
 中山道 69 宿 碓氷 板橋 一日本橋
 日光街道 21 宿 栗橋 千住 一日本橋
 甲州街道 44 宿 小仏 新宿 一日本橋
 奥州街道 27 宿 白河 (陸奥国)
 脇街道…五街道以外。例幣使街道など。
 道中奉行が管理 (大目付 が兼務)
 街道には関所、一里塚、宿場町が整備。
 1日40キロ歩くのがふつう→1里=4キロと定める。大木に青つエノキ

関所…通行の管理。関銭 全員無料。
 入り鉄砲に出女でめしな を特に警戒。
 庶民は 寺社参詣 を理由に。
 警戒度 東海道 > 中山道

幕府専用の 継飛脚 …人が早馬。
 東海道 530 km を 53 次。10 km 交替。
 大名ごとの 大名飛脚
 庶民利用の 町飛脚

宿場町にあるもの

- ① 庶民の旅館である 旅籠屋、木賃宿。
- ② 大名は 本陣 に宿泊。大名行列は行軍。「籠姿」
- ③ 問屋場…人馬引継事務、人足・伝馬の用意を行う宿場の中央センター。
伝馬役 …馬 100、人 100 常備の負担
助郷役 …宿場町の人馬不足分を近隣の村に急きよ負担させた。

<交通整備の結果>

- あ 中央の文化や技術が地方に広まる
- い 地方で街道沿いに宿場町が栄える
- う 自給自足から社会的分業に高度化

<水上交通>

物資輸送は水運が基本。

京都の朱印船商人 角倉了以。
 京都と大坂を結ぶ運河 高瀬川 が開削
 駿府の家康の命令で 富士川 整備。

江戸が 120 万都市に急成長、物資足りず
 →先進地域の 上方 から物資供給受ける
 大坂⇄江戸を海路で繋ぐのが 南海路

※ 南海道は古代の行政区画&官道のことです

菱垣廻船

いろいろな商品を混載。荷室がいっぱいになってから出航したい。
 当時の酒はアルコール度数が低く生もの扱い、すぐ鮮度が落ちてしまう。
 酒樽は重いので最初に積み込まなければならない。でも船の出航は遅い。

樽廻船

灘・伏見の酒問屋が作った酒樽専用線船。酒樽の上に
 酒以外の荷物もついでに格安で運んであげたのもうかった。
 →やがて樽廻船が菱垣廻船を圧倒。

元禄文化期に急成長した豪商 河村瑞賢

1代で成り上がった豪商。娘を若き日の新井白石に嫁がせようとして
 貧乏な白石に断られたが、瑞賢はそんな新井白石を称賛し、学資援助した。
 朱子学の幕府は商業振興にまるで関心がない。そこで河村瑞賢が
 幕府に願い出て許可を得て、全国の海上輸送路を整備した。

西廻り航路

北海道のふかひれ、いりこ、千し鮑
 セットの 俵物 が長崎へ
 北海道のコンブが大坂へ

東廻り航路

南海路…土佐のカツオが南海路で江戸へ

